

# 建築構造設計者のスキルアップ教育に関する調査研究その2 報告書

## — 調査概要 —

本報告書は公益財団法人建築技術教育普及センター（JAEIC）からの委託を受けて、一般社団法人日本建築構造技術者協会（JSCA）が建築構造設計者のための制振構造、免震構造、非構造部材の設計についてのスキルアップ教材を検討し、提案したものである。

### 1. 調査研究の目的

平成 30 年度には、建築物の構造設計を行う際に、建築構造設計者のうち特に若手の建築構造設計者が知識を習得するのは OJT を基本としつつも、適切な教材を用いた自己学習も有効であると検討結果及び、RC、S、基礎構造及び一貫構造計算プログラムの教材例を示した。本調査研究では、平成 30 年度の検討結果を踏まえ、建築構造設計者のための制振構造、免震構造、非構造部材の設計についてのスキルアップ教材を検討し、提案することを目的とする。

### 2. 調査研究の実施体制

本業務に関しては JAEIC との協議を通して、制振構造、免震構造、非構造部材の設計に関する検討、提案を目的としたことから、JSCA 技術委員会を担当委員会と定め、同委員会における議論を経て、個別具体の検討及び調査は JSCA 技術委員会傘下の応答制御部会（委員数 17 名）、非構造部材部会（委員数 8 名）で行った。

### 3. 調査研究の結論

若手の建築構造設計者の知識、スキルについては OJT（On the Job Training）によることが最も着実な方法であるが、何らかの事情でそれが果たせない、ないしは適切な教材を基に自ら学びたいという意欲を持った若手の構造設計者も存在すると考えられる。

これら若手の構造設計者向けの教材としては制振構造、免震構造、非構造部材の設計についてすべてを網羅した教材も考えられなくはないが、通常的设计とは異なり注意すべき事項に焦点を当てた教材が自己学習素材としては有用であろう。すなわち、制振構造及び免震構造に関しては、時刻歴地震応答解析を前提とした応答制御設計特有のデバイス、モデル化等を中心に学びうる教材が、非構造部材に関しては、地震被害例を踏まえた注意すべき事項等を盛り込んだ教材が有効と考えられる。

この観点から報告書末尾には、講習会資料としてそのまま印刷すれば教材にもなる形の PPT（パワーポイント）を作成し、PDF で 1 頁に 4 コマ出力し、参考に供した。将来的には、これらの PPT に音声を載せ、動画化した教材として WEB 教育素材とすることも考えられる。

以上